

心ふれあう

ちょっと

# おかやまのちょっといい話

シリーズ ⑩

※チラシは偶数月の第一月曜日に皆様にお届けしています。過去のシリーズはアーバンホールのホームページでもご覧いただけます。

## 父と娘と今日の一日

家庭によっても違うと思います  
が、父と娘と言うのは成長するに  
したがって、微妙な距離を保ちなが  
ら過ごすようになります。

も思っています。  
仕事には旬と言つものがありま  
す。「鉄は熱いうちに打て」と同じ  
で、今この時にやらなくては時期を  
逃す、流れが変わる、できることも  
できなくなるというのはどの仕事  
にもあると思つのです。

岡山県北での貧乏暮らしが嫌で、県  
南に出てきたのが25年前。がむしゃ  
らに働いてきました。結婚をし、子  
供ができ、その娘も気付けばもつす  
ぐ高校入学です。

しかし、振り返れば家族にも旬があ  
りました。その時期にしかできない  
コミュニケーションがたくさんあ  
ります。私はどこかにそれを置いて  
きてしまいました。もはや中学生の  
娘と小さいころのように手を繋い  
で外出することも、膝の上に座らせ  
て一緒にテレビを見ることもない  
でしょう。妻のおかげで、毎日仕事  
に没頭して、家に帰れば妻と娘がい  
る幸せな環境に気付かず過ぎ

県外の大学に出て、そのまま嫁に  
行つたりすると、もうあと3年しか  
一緒に暮らす時間は無いかもしれ  
ません。そう思うと、毎日がとても  
大切に思えてくるのです。私は仕事  
が第一で家庭を顧みず仕事をして  
きました。それが男として、夫とし  
て、父として大切だという事は今で

ルを歩いていると、「あ、友達だ」と  
娘が言つので、振り返ると娘が柱の  
陰に隠れるようにしているのです。  
「なんだ、隠れなくてもいいじゃな  
いか」と言いながら、(私と一緒に居  
るところを見られたくないのか)  
と、何とも空しい気持ちを押しえて  
いました。(まあ、そんなものかと)  
思いながらもやっぱりさみしいも  
のです。



その後、通路の角を曲がると突然  
娘が言いました。「今日は友達の出  
生日プレゼント買いに来たから、ば  
れたくなかったのよ」と私の気持ち  
を察してかフォローされてしま  
いました。

気を遣えるようになったかと思  
う反面、気持ちを見透かされて恥  
ずかしくもありました。  
それから帰るまではいつも少し離  
れて歩く娘がびったり横で一緒に  
歩いていました。(昔の妻に似てき  
たな)と横顔を見ながらじんわりと  
胸が熱くなるのを感じました。

「光陰矢のごとし」そう思いながら、  
些細な一瞬一瞬を大切に、家族との  
時間を過ごすことの大切さを改め  
て感じました。

今しかできない事、今だからできる  
事、そう思えば毎日が輝いてきた気  
がする出来事でした。



社会の最小単位は家族です。家族があり、家庭があるという事に感謝し、大切にすることから幸福が始まります。一瞬一瞬の家族との時間を愛おしく、重ねていきたいものです。

野口英世

人生最大の幸福は、一家の和楽である。

あなたのアーバンホール

# アーバンホール

葬儀・法要・ギフト

ご応募いただいた優秀な作品はアーバンホールのホームページ上・チラシなどにてご紹介させていただきます。ご意見・ご感想もお待ちしております。またご応募いただいた方全員にささやかながら粗品を進呈させていただきます。  
◆応募先/アーバンホール「ちょっといい話」係 〒710-0841 倉敷市堀南805-1 ◆記入事項/①住所②氏名③電話番号④年齢⑤エピソードご応募の方は1200文字程度(原稿用紙・ワープロいずれも可)にてお願い致します。尚、作品の返却はありません。

皆様の『心ふれあう おかやまのちょっといい話』をお寄せください。